

# 福井県における サクラマス増殖の取り組みについて



【写真提供：サクラマスレストレーション】

## 福井県内水面総合センター

# 九頭竜川

流程: 116km

流域面積: 2,930km<sup>2</sup>

平均勾配: 7.6%

支流: 足羽川、日野川、竹田川、  
真名川、滝波川 等

サクラマス増殖の取り組み

九頭竜川中部漁協 管轄区域



# 九頭竜川のサクラマス好釣り場



漁場管理： 九頭竜川中部漁協

期間： 2月1日～5月31日（一部の区域は2月16日～）

区域： 九頭竜川本流 高屋橋～鳴鹿大堰

漁法： ルアー・フライ釣りのみ

# 九頭竜川のサクラマスに関する経緯 1

1988年

## 九頭竜川でのサクラマス釣りが有名になる

フライ釣りで著名な釣り人 沢田賢一郎氏が、フライによるサクラマス釣りを日本で初めて九頭竜川で確立。

この後、九頭竜川でのサクラマス釣りの遊漁者が急増。  
遊漁者の間で「サクラマスの聖地」と呼ばれるようになる。

1993年

## 九頭竜川においてヤマメが漁業権魚種となる

同時に、雑魚券の対象種の中に「ヤマメ(サクラマス)」が明記される。

1994年

## 遊漁者の活動が活発になる

釣り人グループ「サクラマスアンリミテッド」が結成され、稚魚放流やキャッチ&リリース推進活動が行われる。

1998年

福井市内の釣具店がサクラマスダービーを開始。釣られたサクラマスが記録されるようになる。

2003年

## 遊漁者の要望を取り入れた規則に変更

サクラマスの好釣場における漁法がルアー・フライに限定される  
(餌釣り禁止)



# 九頭竜川のサクラマスに関する経緯 2

2007年

県水産課による**九頭竜川産サクラマス資源増大事業(4年間)**が開始

2008年

県事業による**初の九頭竜川産サクラマス稚魚(F1)**が放流される。  
以後、毎年春と秋に放流(春と秋合わせて1万尾放流)

釣り人グループ「サクラマスレストレーション」が  
結成され、サクラマスの自然再生を目指した  
活動が行われる。



2011年

**九頭竜川中部漁協が事業主体**となり九頭竜川産サクラマス資源増大事業(3年間)を継続。【漁協とサクラマスレストレーション、生産組合、県との連携により実施】

サクラマスレストレーションを中心とした**釣り人によるサクラマス親魚の捕獲提供が本格化**

九頭竜川産サクラマス稚魚(F1)の**標識放流開始**

【写真提供：サクラマスレストレーション】

# 九頭竜川産サクラマス資源増大事業 (2007～2013年度)

## 目的

九頭竜川産のサクラマスの資源増大

九頭竜川のサクラマスのブランド強化や知名度向上

## 事業内容

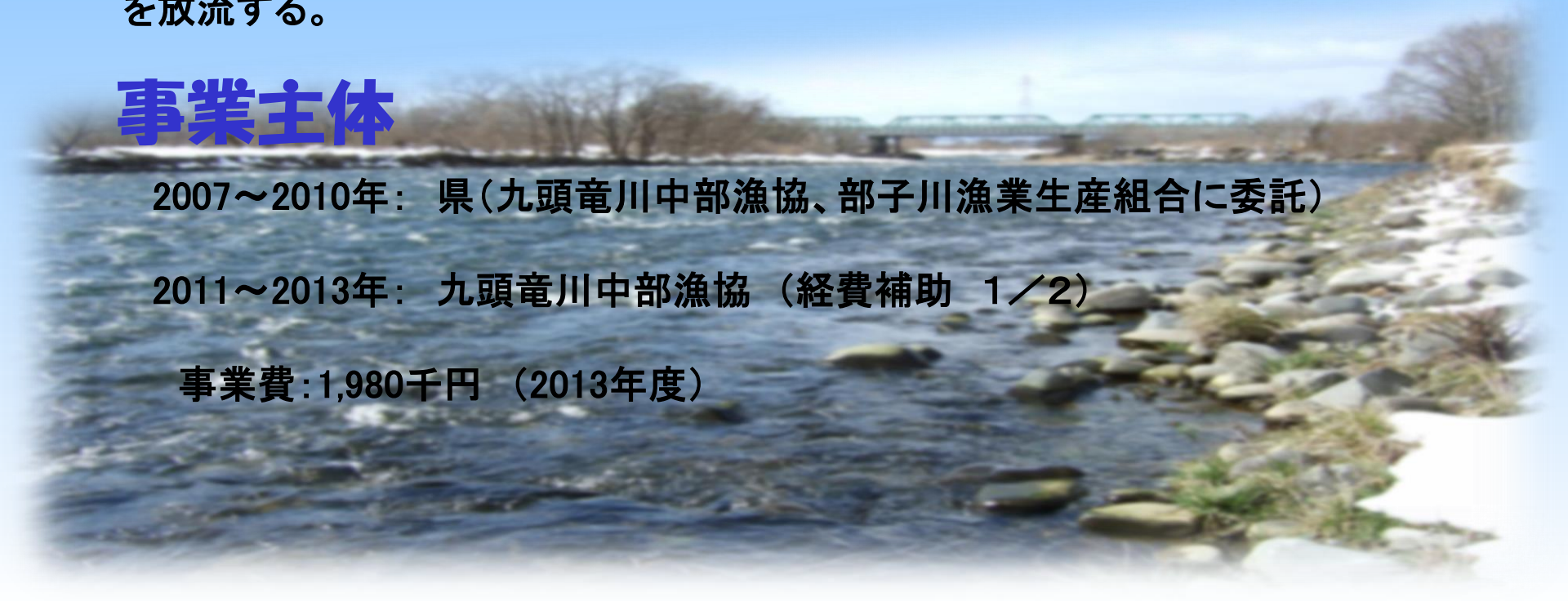
九頭竜川に遡上したサクラマスから採卵、ふ化させ、育成した種苗(F1)を1万尾を放流する。

## 事業主体

2007～2010年： 県(九頭竜川中部漁協、部子川漁業生産組合に委託)

2011～2013年： 九頭竜川中部漁協 (経費補助 1/2)

事業費:1,980千円 (2013年度)



九頭竜川中部漁協

Thank you



サクラマスレストレーション  
(釣りグループ)

親魚採捕



稚魚放流



2011年～  
一部 標識放流

補助

委託

部子川漁業生産組合  
(生産組合)

親魚養成  
採卵・卵管理  
稚魚育成

水産課

福井県

内水面総合センター

協力





# 生態調査ご協力をお願い

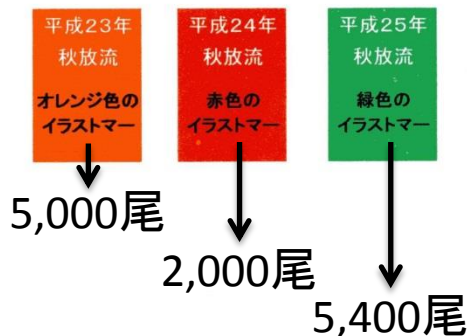
標識のあるサクラマス・ヤマメを釣った方はご連絡をお願いします！

九頭竜川中部漁協では、サクラマスの生態をより詳細に把握し今後の増殖につなげていくために、イラストマーによる標識放流を毎年行っています。

下記のような標識が施されたサクラマス、ヤマメを釣られた方は、ご連絡をよろしくお願い致します。



魚の右目(一部には両目)の後方に  
蛍光樹脂を皮下注射しています。



- ※ 10cm～20cm程の幼魚に標識をしましたので、小さくて分かり難いですが、観察をよろしくお願い致します。
- ※ UVライト(ブラックライト)を当てると見やすくなります。
- ※ キープの方もリリースの方もご協力をお願い致します。

ご連絡方法 下記のいずれかの方法をお願いします

※ ご連絡を頂いた方に粗品を進呈致します。

遊漁証を取り扱っている  
釣具店に持ち込んで下さい

- ① 別紙の『連絡用紙』に記入をお願いします。
- ② 写真撮影(魚の全身&標識のある顔のアップ)をしてもらって下さい。

九頭竜川中部漁協宛に  
メールを送信して下さい

- ① 別紙の『連絡用紙』と同じ内容をメールして下さい。
- ② 写真(魚の全身&標識のある顔のアップ)を添付して下さい。

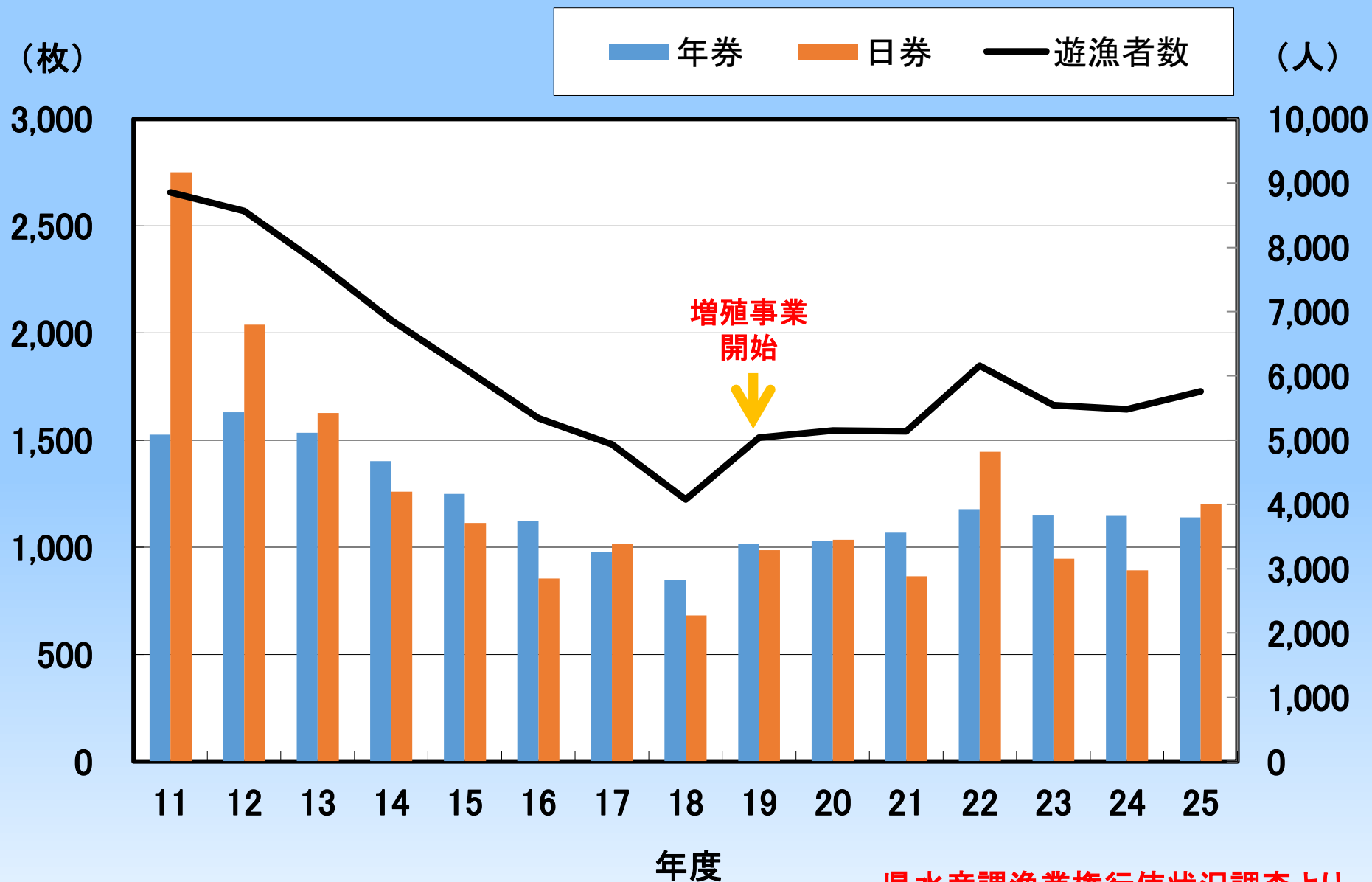
**ayu-kzr @ galaxy.ocn.ne.jp**

お問い合わせ

九頭竜川中部漁業協同組合 TEL0776-61-0246

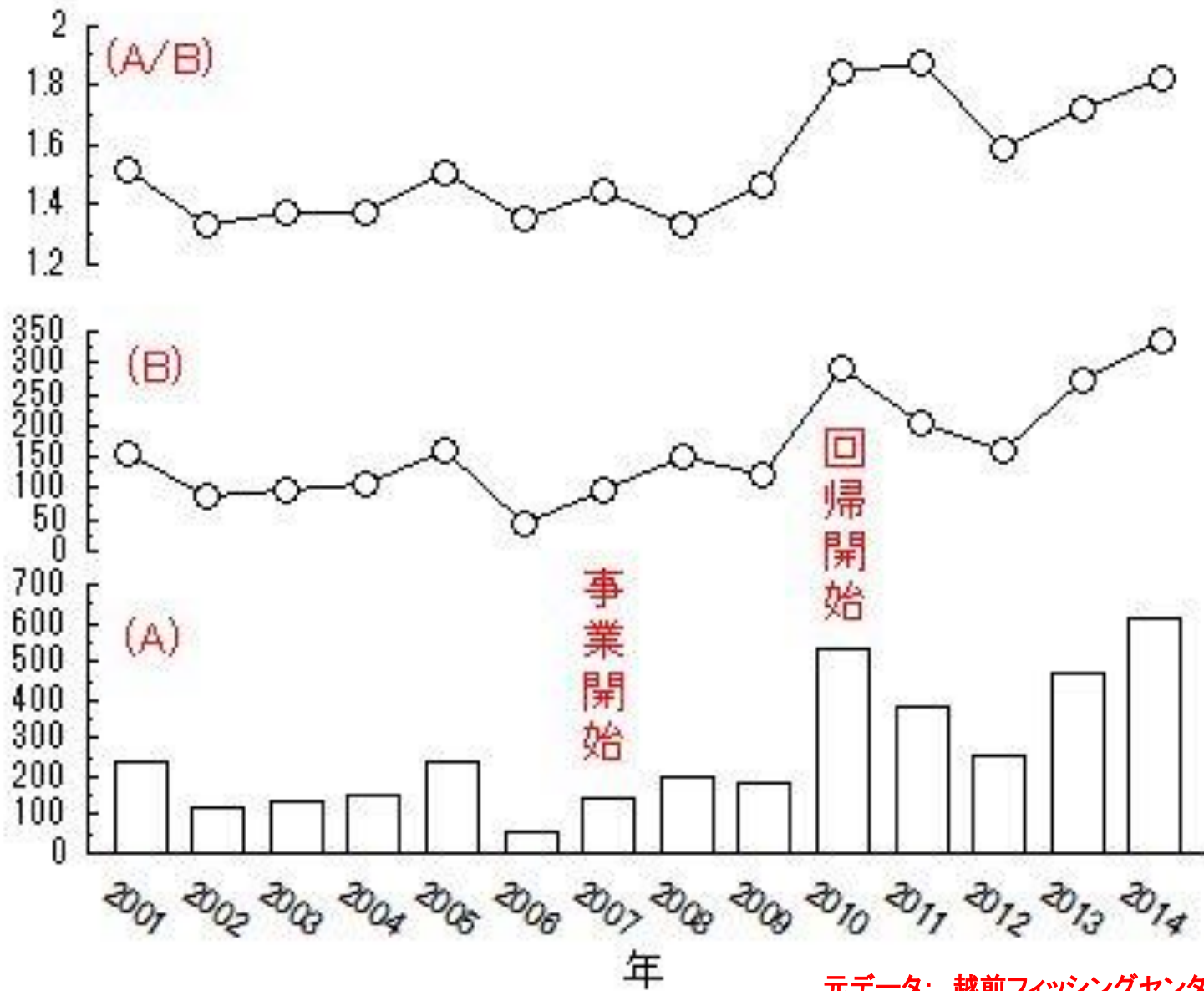
http : // [www.kuzuryu-chubu.jp](http://www.kuzuryu-chubu.jp)





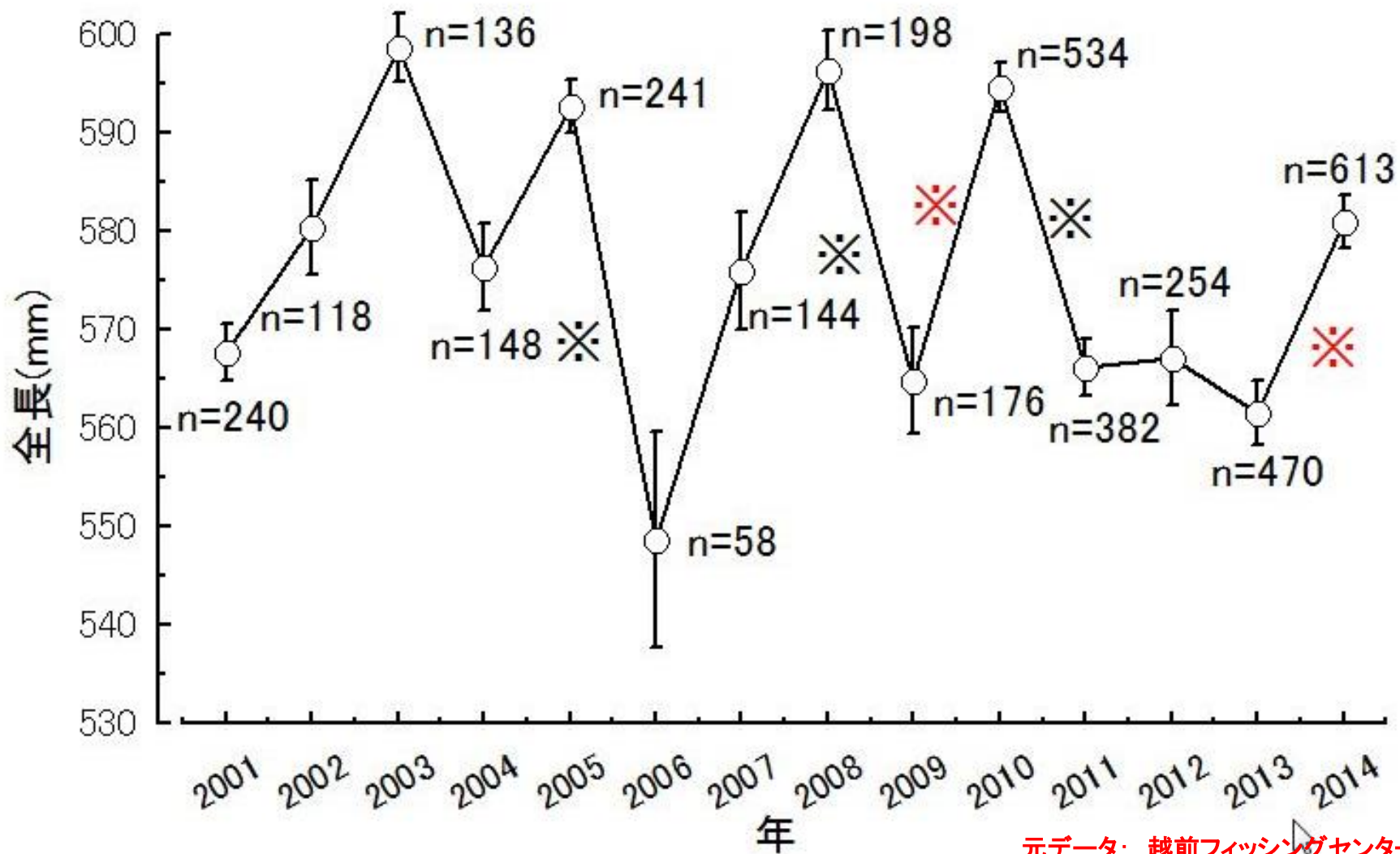
# 遊漁券売上枚数・遊漁者の推移

釣獲数(尾) 参加者数(人) 一人当たり釣獲数(尾)



元データ: 越前フィッシングセンター

# サクラマスの釣獲数と一人当たり釣獲数の経年変化



元データ: 越前フィッシングセンター

## 九頭竜川で釣獲されたサクラマス全長の経年変化

数値は平均値±SEMで示す。nはサンプル数(釣獲数)を示す。  
 ※両年の平均値間で有意差があったことを示す(P<0.05)。  
 (黒字: 小さくなったことを示す 赤字: 大きくなったことを示す)



# 九頭竜川のサクラマスに関する経緯 3

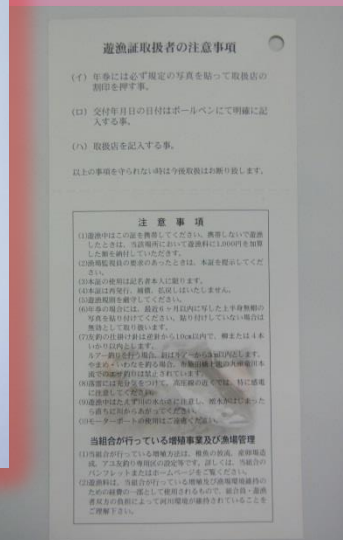
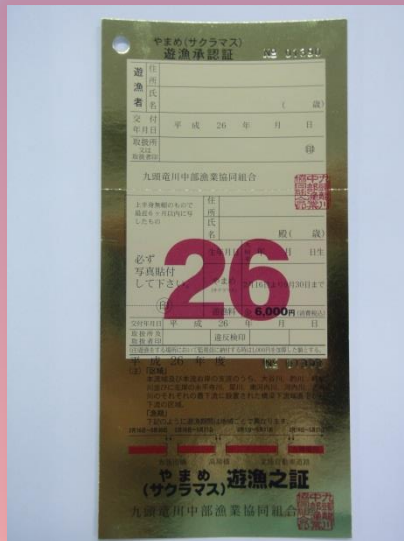
2013年

県内のほとんどの漁場で**漁業権対象種としてアマゴが廃止され、ヤマメに切り替わる。**

2014年

九頭竜川中部漁協がヤマメ(サクラマス)専用の遊漁券を発行。

**福井県サクラマス資源増大事業が開始**、九頭竜川水系全体で九頭竜川産サクラマス稚魚が放流されるよう、親魚養成(F1)を行う。



## 九頭竜川水系



# これまでの取り組みによる波及効果

❁ 地元の保育園児によるサクラマス稚魚の放流会が恒例イベントとして定着(年2回)

❁ 地元住民のサクラマスへの関心が高まる

- ・ 釣り人と地元住民との交流会が開催される(サクラマスサミット)
- ・ 地元住民による保全活動が活発に(九頭竜川の2つの支流で会が発足)
- ・ 地元小学校の環境学習に取り上げられる

❁ サクラマスを使った郷土料理の復活・継承のための活動が始まる(九頭竜川プロジェクト)

❁ 堰の流量調整や魚道の改善によって、より上流への遡上が確認され、生息域が広がった



# 福井県におけるサクラマス増殖の今後について

サクラマスの稚魚(F1)を1万尾を九頭竜川本流に放流 ⇒ 継続

福井県サクラマス資源増大事業による九頭竜川水系全体で九頭竜川産サクラマス稚魚を放流するための親魚養成(F1) ⇒ 継続

## サクラマスにおける課題

- ① 産卵場や育成場が十分に確保されていないことから、自然再生産が安定していない
- ② 長年のアマゴ放流により、現況のサクラマス親魚が純系であるかが不明

## これまでの取り組みを継続しつつ研究事業を実施

- ① モデル河川(支流)において、遡上・産卵が可能であり、稚魚育成に適した場所を造成 ⇒ 安定した産卵場と生育場確保による再生産拡大
- ② アマゴとの交雑の実態を調査 ⇒ 純系サクラマス親魚を選別し、放流用稚魚や親魚を生産